

「たから流路工管理協議会」が土砂災害防止功 労者表彰（国土交通大臣表彰）を受賞

国土交通省では、毎年6月の土砂災害防止月間にあわせて土砂災害防止に関して顕著な功績のあった個人及び団体に対して国土交通大臣表彰を実施しています。

今年度は、全国で個人1名、8団体が表彰され、当事務所管内から「たから流路工管理協議会」が受賞しました。

なお、表彰状伝達式は、平成26年6月5日（木）熊本市で開催された「土砂災害防止（全国の集い）」で行われました。

詳細は別添のとおりです。なお、不明な点や写真データにつきましては、下記までお問い合わせ願います。

【問い合わせ先】

国土交通省北陸地方整備局神通川水系砂防事務所

TEL (0578)82-1220（代表）

副所長 浅井誠二（あさい せいじ）（内線204）

「たから流路工管理協議会」が 土砂災害防止功労者表彰を受賞



増田国土交通事務次官から表彰状を受け取る沖本会長
平成26年6月5日（木）熊本市民会館崇城大学ホールにて

土砂災害防止功労者とは

目的：土砂災害防止に関して顕著な功労があり、他の模範となる個人または団体を表彰し、もって土砂災害防止に寄与することを目的とする。

表彰権者：国土交通大臣

たから流路工管理協議会が表彰を受けた基準

表彰基準^{*}：砂防設備等の土砂災害防止施設における美化、清掃等をおおむね5年以上にわたり行い、施設の維持管理に顕著な功績があったこと。

* 他の表彰基準

- ・土砂災害の発生に際し、危険を顧みず、身を挺して地域住民の生命又は身体の保護に顕著な成果をあげたこと
- ・土砂災害による二次災害防止に関する協力又は被災地域の情報提供、社会秩序の保全等の被災者支援活動に顕著な成果をあげたこと
- ・土砂災害防止フェア、シンポジウム、講演会等をおおむね10年以上にわたり開催し、又は土砂災害に関する記録映画の制作、出版等を行い、国民の土砂災害防止思想の普及に顕著な成績又は功績があったこと
- ・土砂災害に対する警戒避難体制の整備又は土砂災害防止対策事業の推進におおむね10年以上にわたり努め、顕著な成績又は功績があったこと
- ・土砂災害防止施設、溪流、斜面等の点検、監視等をおおむね5年以上にわたり行い、土砂災害防止に顕著な功績があったこと

たから流路工管理協議会の組織概要

名称：たから流路工管理協議会

代表：沖本善邦

設立：平成10年7月2日設立

(高山市奥飛騨温泉郷 栃尾、今見、村上町内会の住民で結成)

会員：122戸（平成25年6月現在）

目的：たから流路工の適切な維持管理について協議するとともに、その実現に努め、もって地域づくりと一体となった流路工の実現に資することを目的とする。

活動内容：①流路工及び周辺地の美観の保持に関する事項

②流路工利用者の安全確保に関する事項

③関連施設の管理に関する事項

④その他、目的達成に必要な事項

※目的、活動内容は「たから流路工管理協議会規約」より抜粋

たから流路工管理協議会の活動概要



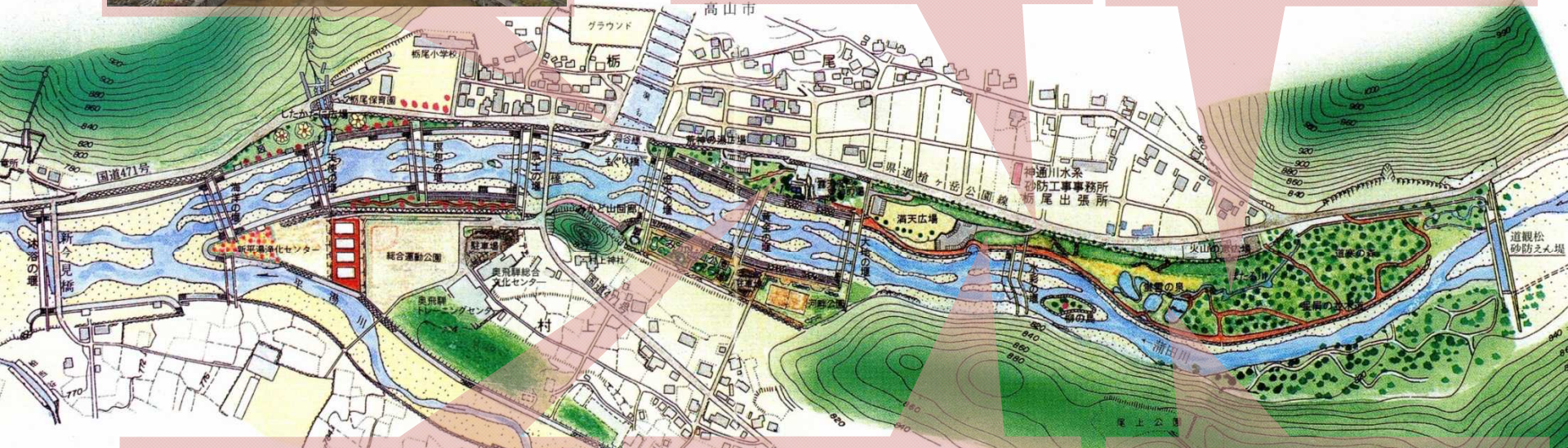
洞谷の春は植樹された桜が満開となり、夜にはライトアップもされます



老人会の皆さんの手で花が植えられます。



9月水性生物調査を地元小学校の生徒と実施しています。



冬は雪像コンテストやイルミネーションで観光客を出迎えます。



夏は除草作業等を行い美化に努めます。



毎年7月ホテル観賞会が行われます。

たから流路工管理協議会の表彰趣旨

「たから流路工」は、昭和54年8月の洞谷豪雨災害などの度重なる土砂災害発生を受け、平成元年着工、平成10年に竣工した施設で、自然石を利用した床固工群や階段式護岸によって、緑豊かな親水空間が生まれ、背後地に整備された散策路等と一体となって、地元住民はもとより、多くの観光客に親しまれている。

当団体は、流路工完成に伴い、周辺的美観保持と利用者の安全確保等に資することを目的として、平成10年7月に設立され、以来15年間、支障木伐採、除草、清掃活動に併せ、花の植栽等を継続して実施、周辺の環境美化に努めるとともに、日常的な見回り点検、地元小学生の水生生物調査支援などを通じ、利用者の安全確保、地域の自然環境に関する理解促進を図っています。

当団体の長年にわたる諸活動は、砂防施設の維持管理への貢献にとどまらず、地域住民や観光客が砂防事業を身近に感じる場を提供することにより、土砂災害防止意識の向上にも貢献しました。

第32回土砂災害防止月間「全国の集い」

◆日時 平成26年6月5日（木）13:30～

◆会場 熊本市民会館崇城大学ホール

◆プログラム

・開会式典（増田事務次官挨拶他）

・土砂災害防止功労者表彰

・基調講演

「国土強靱化と国土保全」

京都大学 藤井聡（内閣官房参与）

・パネルディスカッション

「土砂災害の激甚化に備える」

コーディネーター 松本 浩司（NHK解説員）

パネリスト 竹内裕希子（熊本大学准教授）

作田 潤一（南阿蘇村立久木野中学校長）

西川 裕（津奈木町長）

川辺 尚也（五木村保健福祉課長）

コメンテーター 北園 芳人（熊本大学特任教授）

大野 宏之（国土交通省砂防部長）



土砂災害防止功労者表彰式



事務次官から表彰趣旨が読み上げられます



事前説明で緊張する沖本会長



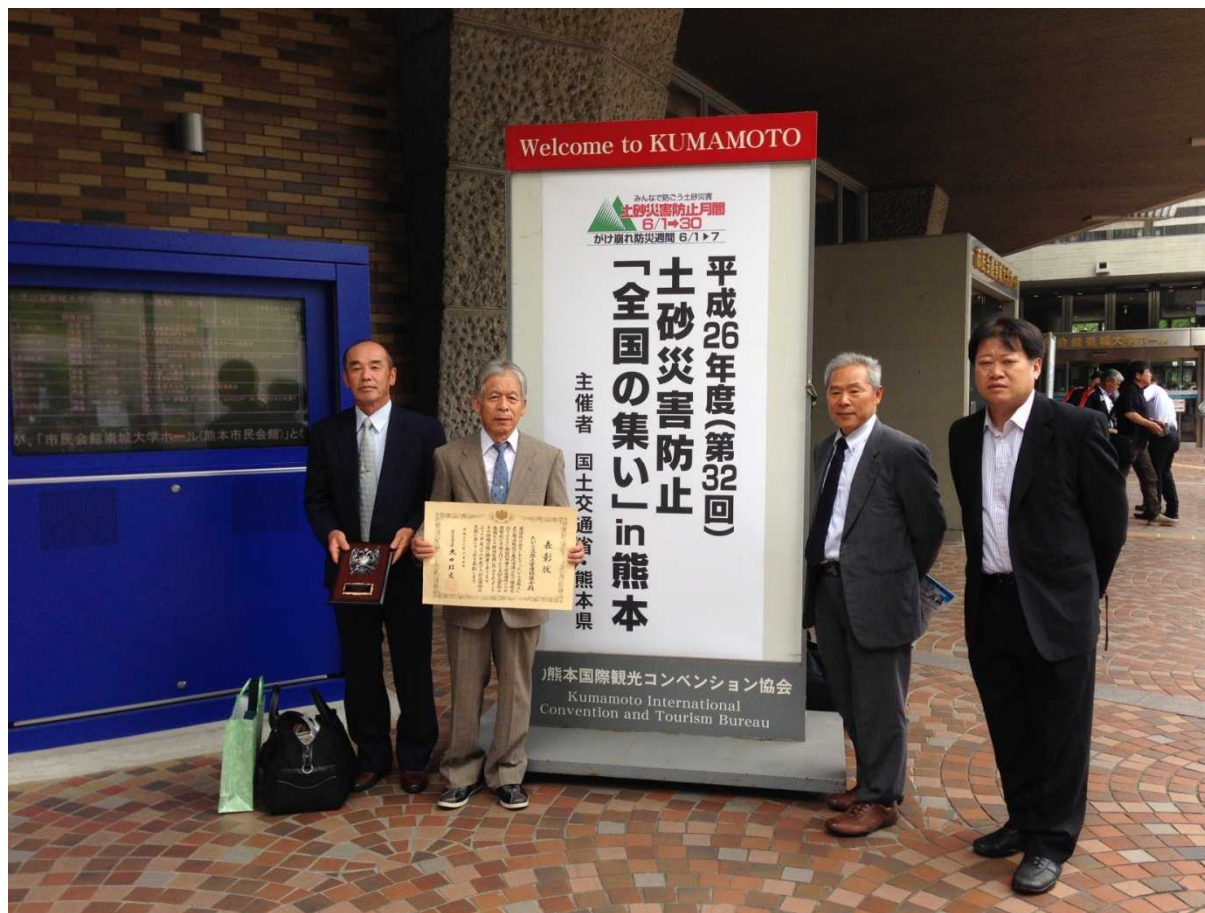
丁寧に受け取る会長



「くまもん」も表彰式に参列

式典を終えて

記念撮影



左から、松井一夫氏、沖本善邦会長、竹腰藤年氏、内藤一彦氏

たから流路工の概要

～たから流路工の概要～

たから流路工が位置する蒲田川は、槍ヶ岳や穂高岳等3,000m級の山々が続く北アルプスを水源として流路延長が18.8kmの山地河川です。

流域の左岸側に位置する焼岳は、現在もなお活動しており、過去の噴火で貯まった多くの不安定な土砂が広い範囲にわたり残っています。一旦大雨が降ると地盤がゆるみ、何度も土砂崩れが起り、大きな被害をこうむりました。

そこで川底や川岸に貯まった土砂の流出防止と河道の安定を図り、地域の安全を確保するためにこの流路工の工事が平成元年度に始まり、平成9年度に完成しました。

安定化した両岸には、地元の高山市が奥飛騨の大自然を活かした快適な水辺をめざして親水公園等の整備を進め、地域づくりに役立っています。

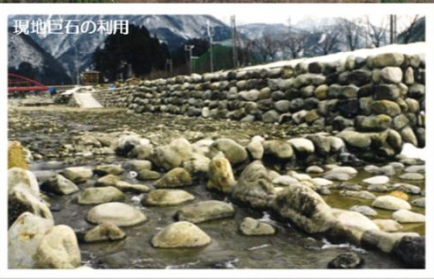
～自然を利用した砂防施設～

流路工周辺の景観の配慮と資源の有効活用を兼ねて床固工、帯工、護岸、魚道を河原にある巨石を利用して造っています。また川と親しめるように親水護岸も設置しました。

緑の遊砂地工は、自生している樹木によって、洪水の時に土砂の移動や流木を防ぐもので、道親松砂防堰堤の下流に設けました。

～諸 元～

施工場所：高山市奥飛騨温泉郷
 栃尾・村上・今見・柏当
 流域面積：蒲田川 100.6㎢
 平湯川 59.0㎢
 合流後 159.6㎢
 計画対象流量：蒲田川 1,000㎢/sec
 平湯川 770㎢/sec
 合流後 1,630㎢/sec
 計画延長：2,010m
 主要施設：床固工 8基
 帯工 1基
 遊砂地 1ヶ所
 着工：平成12年12月
 完成：平成10年3月



現地巨石の利用



栃尾温泉桜まつり (洞谷)



足湯『虫の湯』



栃尾温泉「荒神の湯」一帯のイルミネーション



奥飛騨温泉郷で開催される雪像コンテスト

